

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

### 1. 評価結果の概要

#### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このグループホームが地域密着型サービス事業所として利用者や家族と地域に対して活躍していることは、「ゆったり我が家 こまくさ」が象徴していると言っても過言ではない。こまくさが、平成13年5月に設立されて以来、ホームの利用者がどのように生活しているか、ホーム自身が家族や地域及び関連団体と協働してどのような活動をしているか、職員がホームを通して、認知症ケアやサービス提供の研究実践をどのようにしているか等克明に記録し、前記の“こまくさたより”で関係先に知らせて、56号まで発行をした。そして5周年を記念して記念号の発行もした。このたより及び記念号がどうして価値があるかと言うと、まず日常のホームの生活の様子が職員の直筆で、会話体や写真から飛び出す発語をふんだんに使い、利用者の多くの顔写真を掲載して、文章と表情で行事や生活を表現していることである。職員が交代で編集委員を担当し、職員自身で各記事を書いている。一番は本人や家族が写真の掲載に同意していることである。このこまくさ便りは各方面に配布され、公開されている。毎号B-4用紙で14~16頁位の莫大な内容で発行されている。

この“こまくさたより”は、グループホームの利用者・家族・職員が行動する表舞台を表現し、利用者の嬉しいこと、楽しいこと、感激した言葉や行動あるいは悲しいことが全て紹介されている。運営推進会議や研修会の様子、作品展の様子も掲載された。

この舞台を演出するには、その土台として日常の職員やこまくさ関係者の業務(仕事)を一つひとつ確実にこなしているからこそできることであろう。常に職員は自ら研修に取り組み、知識と技能の向上に励んでいる。職員にはさまざまな職種の人がいる。介護職や看護職の他に、調理師、介護食士という職種からは楽しく、おいしく食べて健康に過ごすことを重視している様子が伺えるし、精神保健福祉士、認知症ケア専門士といった職員からは認知症ケアへの誇りを持った取り組みが伺える。これらは母体の院長に職員を育てようとする姿勢があり、職員の研修参加を容易にしている。この境遇の中で職員自身の意欲も旺盛で、認知症高齢者の幸せを願う共通の認識があることが、このホームを立派な事業所に発展させているのだろう。是非、自主評価と外部評価を連携させて、ホームのサービス改善を一歩一歩実現していくために役立てて頂きたい。

#### 特に改善の余地があると思われる点

利用者の残された人生を一人の人間として尊ぶためにも、医療・心理・介護のデータをもっと取り入れて、「それぞれの介護計画をもっと豊富に策定できる方法を取り入れることができないか考えてみて欲しいなぁ」と強制ではなく考えてみた。これらの考えが、介護計画や記録の改善に活かせる道が見つかればと願っている。

**事業所名** こまくさ

日付 平成19年10月24日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 看護・訪問看護経験5年、福祉系短期大学  
教職員実務経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…理念に関する改善事項はないが、自主評価全体を見て評価項目に重軽をつけてホームの日常業務に照らし合わせている。各項目によっては、ホームの実情に適合し難いところもあるが、利用者の実情やホーム周辺の実態をよく把握しており、運営に生かされた自主評価を行っている。</p> <p>2. 全体的に見て…認知症になった人の思いをしっかり受け止めて、「今ここで」を大切に、残された人生を支えていこうとするホームの心構えを感じる。認知症の人にとっては、その日を楽しみ、自分らしく過ごすことの積み重ねが必要と思うし、ホームでの生活に満足してもらう日々の連続だろう。加齢や病気になって、人生のリスクを背負った利用者の心をしっかりと受け止め、個人生活と共同生活両面をきちっと両立させているホームである。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…利用者の身体機能の低下や個人の体格の差によって生活行動に支障があったり、調理等の仕事に難しい事もあるので、利用者の行動に不便を与えないよう工夫していかけている。利用者ができるだけ自分の能力を活かして仕事ができる喜びをもっと感じてもらうという改善は、一人ひとりの利用者にとっては最大の効果となるだろう。</p> <p>2. 全体的に見て…「大人が生活しているなあ」と思わせる雰囲気が漂っている。それは、利用者と職員とのコミュニケーションの活気がもたらしている。大人らしい落ち着いた作品の展示がしてある。その人らしい自分の居住空間をつくっている。自分で何かしようという意気込みのある人が多い。このような環境の中で職員が一人ひとりに応じた声かけや支援をしている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…利用者の持っている能力を、暮らしの中でもっと発揮してもらうことを改善事項にあげている。これは「自分らしさ」を出すきっかけ作りであり、その人の人生に自信を持ってもらうケアに値する。感性や技能を研くことでもあるので、このケアは他の項目への波及効果は大きいと考える。</p> <p>2. 全体的に見て…このホームでは、コミュニケーションを大切にしている。利用者同士、職員と共に、家族とお話等、お話をきくきっかけ作りが大変上手にされている。午前中は「お話の時間」に当て、思い出話や故郷の話などを話題にして皆で話合っている。強制的でないが、自然に多くの利用者が集まるようだ。グループダイナミクスを利用した、馴染みの関係づくりであり、個々の利用者にとっては療法的ケアになっているようだ。堅苦しいものでなく、誰でも自然に入っていける雰囲気で行われている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…災害対策についても身につけておこうと考えている。水害が身近にあり、火災や交通事故等も含めて、日頃から地域と連帯しながら進めておいて欲しい。</p> <p>2. 全体的に見て…母体の理事長や病院関係者の良き理解の上で、職員の研修や同業者との交流を通してサービスの質の向上に努めている。利用者の状況変化に応じ、ミーティング等を通して職員全体で問題意識を共有しつつ考える姿勢は、このホームの伝統である。家族や地域住民、家族の会関係者との意見交換等、ホームでの問題を閉ざすことなく外部へ発信し、多くの関係者で考えるというオープンで真摯な姿勢があつてこそ、このホームの信頼を支えていると感じた。</p>		